

学級活動

生徒会活動

○ 学校行事

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南中学校	対象となる主な学年	第3学年
取組事例名	「学校行事を『オール因島南』の視点で見直す」		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像

生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
<ul style="list-style-type: none"> ・校区内は1小学校・1中学校であり、本校と因島南小学校は徒歩10分という距離に立地しているにもかかわらず、児童生徒交流の活動が実施できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の頑張る姿を見て、心から応援し、自分も頑張ろうと意欲を燃やす生徒。 ・小学生の憧れや目標になりたいと、自分を高めようとする生徒。



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

- ・学校行事に小中交流の場を設定することで、小中共に「オール因島南」の一員であることを自覚させる。
- ・小中が互いに頑張る姿を見ることで、刺激を受け合い、共に高め合う児童生徒、集団を育成する。

取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等

<尾道みなと祭ええじゃん SANSА・がり踊り>

- ・尾道みなと祭には「チーム因島南」の一員であることを自覚して参加することを意図して、小学校グラウンドで全校児童の前で、小4児童と中2・3年生徒が踊りを披露し合い、エール交換した。
- ・翌日の日記には、「家に帰ると、小学生の弟・妹が『兄ちゃん、かっこよかった』と言ってくれて、うれしかった。本番でも大きな声で笑顔で最後まで踊りたい。」とあり、本番への意欲の高まりが見られた。



【自己決定の場の提供】

<尾道市小中学校芸術祭音楽コンクール>

- ・因島南小学校からの提案により、この学校行事も「チーム因島南」として臨むことを意図して、本校の体育館で小6児童と中3生徒が合唱を披露し合い、エールを交換する活動を設定した。この取組では小・中の校長からの激励の言葉もあり、期待に応えたいという思いを3年生は強めた。
- ・小学生に見られていることにより、練習期間で一番引き締まった表情で、真剣に歌う姿が見られた。交流後の振り返りには、「エール交換を通して、明日（本番）へのやる気をより上げることができた」とあり、意欲の一層の高まりが見られた。



【自己決定の場の提供】

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

- 生徒アンケート「先輩としての自覚を持って行動した場面があった。」の3年生の肯定的回答は、1学期 90.2%（昨年度 87.5%）、2学期 92.9%（昨年度 86.7%）であり、昨年度より上昇した。「チーム因島南」という視点で学校行事を見直し、小中交流の活動を設定したことにより、先輩としての自覚や責任が強まり、学校行事に取り組む意欲も高まった。
- 「チーム因島南」という視点で、今後も学校行事を見直し、活動内容を工夫することで、児童生徒が刺激を受け合い、高め合う関係づくりを進める。